

グループホーム安養 東棟

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目） ※取り組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅰ 理念に基づく運営 1～5 (自己№1～24・外部№1～14)				自己評価24項目・外部評価14項目	2	
Ⅰ 理念に 基づく 運営	1 理念の共有(自己№1～3・外部№1～2)			自己評価 3 項目・外部評価 2 項目	1	
	1 理念の 共有	1 外部 評価 1	○ 地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎年、事業計画を作成し、その人らしい暮らしを継続出来る様、事業理念を作成している。	1	事業所独自での理念を模索する必要がある。
		2 外部 評価 2	○ 理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々実施に向けて取り組んでいる。	0	
		3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時の説明に加え、運営推進会議内でも説明を行っている。また玄関に標記し開示している。	0	
	2 地域との支え合い(自己№4～6・外部№3)			自己評価 3 項目・外部評価 1 項目	1	
	2 地域 との 支え 合い	4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	法人主催事やもちつきなど近隣の方との参加呼びかけを行っている。出来る限り開放した施設作りに努めている。	1	法人敷地内を地域の方の催事の集合場所として開放している。
		5 外部 評価 3	○ 地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事参加やリサイクル活動等により交流を図っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅰ 理念に基づく運営	2 支地域 合との	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホーム内において、通所介護事業を展開しておりグループホームという入居型施設を在宅サービスとしても活用いただいている。	0	
	3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己№7～11・外部№4～7)		自己評価5項目・外部評価4項目	0	
	3 理念を実践するための制度の理解と活用	7 外部評価4	○評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を踏まえ、改善に取り組んでいる。また外部評価前の自己評価は職員全体で取り組んでいる。	0	
		8 外部評価5	○運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場においては、ホームの状況報告や、月次行事予定などを報告し、利用者、職員の状況など報告している。機会を重ねるごとに様々な意見を聴きだせる場となっている。	0	
		9 外部評価6	○市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地区の地域包括支援センター職員からの相談、情報提供などを受けている。	0	
		10 外部評価7	○権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットを活用し周知をしている。これまでのご家族からの相談に申し立て支援をしたことがある。	0	
		11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルにて周知を図ると共に現場においても随時話す機会を持っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅰ 理念に基づく運営	4		理念を実践するための体制(自己№12～18・外部№8～10)	自己評価7項目・外部評価3項目	0	
	4 理念を実践するための体制	12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を費やし説明を取り、必要であれば入退院などの際に個別に時間を取り話を取るようにしている。	0	
		13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランを作成する際にアセスメントを実施し、日常生活の中に取り入れている。またご家族にお願いし、利用者との個別外出も出来るよう働きかけも行っている。	0	
		14 外部評価8	○ 家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議の場において、随時報告させていた	0	
		15 外部評価9	○ 運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設時においてこちらからもお伺いする姿勢を持って対応させていただいており、また運営推進会議もその場として活用している。	0	
		16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人面接の場を実施。意見、提案を聴く機会を設けている。別途、自己申告書等を活用している。	0	
		17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	シフトは1ヶ月ごとの予定に即してシフトを作成しており、突発なケースにおいても、職員同士連携を図りフォロー体制を取っている。また業務的に煩雑な午前中には午前中のみの職員も先般配置したところである。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅰ 理念に基づく運営	4 る 理 念 を の 実 体 践 制 す	18 外 部 評 価 10	○ 職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に関してはやむを得ない場合等もあるが、極力避けるよう早めの対応を行っている。	0	
	5	人材の育成と支援(自己№19～24・外部№11～14)		自己評価6項目・外部評価4項目	0	
	5 人 材 の 育 成 と 支 援	19 外 部 評 価 11	○ 人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	特段の制限などは設けていない。職員の配置を適材適所に心がけている。また自己申告書などを利用し、職員の希望を汲み取れるよう心がけている。	0	
		20 外 部 評 価 12	○ 人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎日の朝礼や申し送りにおいて取り組んでおり、月に1度程度の内部研修において周知を図っている。	0	
		21 外 部 評 価 13	○ 職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施、外部研修等も利用し職員のスキルアップへの取り組みを進めている。	0	
		22 外 部 評 価 14	○ 同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への加入、同事業のみならず高齢者関係事業者との連携を交流会等で図っている。	0	
		23	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事以外の場において個別にランチミーティングを図ったりしている。また年次有給休暇の取得も比較的容易に行われており、職員の心身的にリフレッシュできるよう心がけている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
II	安心と信頼に向けた関係作りと支援	2	新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
		30	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	当ホームでは、家族も利用者として位置づけ、常に意見聴取が出来るよう配慮しており、行事ごとにも家族アンケートなど実施し、その集計結果を運営推進会議等においても活用している。	0	
		31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前相談から十分な説明を行うと共に、入居後においてもご家族で対応が可能な部分においては協力いただきながら、家族と職員の相互協力を図っている。	0	
		32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族協力の下、自宅への外出や外泊等を進めている。	0	
		33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者等における相互関係の活用はグループホームケアの基本とし、各々の関係性に配慮しながら活動いただけるよう支援している。	0	
		34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後においても、それまでの関係が継続できるよう心がけており、過去退去された型がホームを思い出の場として訪れられることもある。	0	
III	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1～4 (自己№35～51・外部№17～22)			自己評価17項目・外部評価6項目	0	
	1	一人ひとりの把握(自己№35～37・外部№17)		自己評価3項目・外部評価1項目	0	
	1	35	○思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご本人の会話や表情、言動、家族からの情報をもとに把握している。またケース検討などを通して本人本位であるサービスを提供できるよう心がけている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からアセスメントを徹底し、入居後においても本人及びご家族からの聴取を心がけている。	0	
		37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前のアセスメント結果を元に、生活リズムや日々の変化を見逃さないよう観察に努め、現状把握、記録なども積極的に活用している。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己№38～40・外部№18～19)		自己評価3項目・外部評価2項目	0	
	2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	38 外部評価18	○チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、職員一人ひとりに担当制をとりながら、介護計画の作成を行っている。また3ヶ月に1度のケアプラン作成を行っておりその都度、ご家族からの希望聴取を心がけている。	0	
		39 外部評価19	○現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1度、ケアプランの作成、見直しを行っている。また状況の変化等があった場合はその都度短い期間においてプランの作成を行っている。ケアプラン作成の際は必ずご家族と協働で行うように心がけている。	0	
		40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者記録やケアプランのチェック表、申し送りノートを活用し具体的に記録に残すよう心がけている。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己№41・外部№20)		自己評価1項目・外部評価1項目	0	
	3 多機能を活かした柔軟な支援	41 外部評価20	○事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設などの特性も利用したり、小規模というスケールメリットを活用しながら、利用者等のニーズに柔軟に、また即応的に対応できるよう心がけている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己№42～51・外部№21～22)		自己評価10項目・外部評価2項目	0	
		42	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の民生委員、町内会等との連携を図りながら年間行事などにも取り入れている。	0	
		43	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	インフォーマルサービス等について、併設事業所のケアマネージャーや、地域包括支援センターの職員などアドバイスを頂くこともある。	0	
		44	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	上記と含め、特に地域包括支援センターの職員等との関りは運営推進会議の場において様々な情報を家族に対しても積極的に情報提供いただいている。	0	
		45 外部評価21	○ かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のみならず、様々な医療機関を利用してもらっており、また地域の医療機関の情報を家族に提供したりすることでの支援を行っている。	0	
		46	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者に応じた医療機関、医師の選定を行いつつ、医師等との連携に努めている。	0	
		47	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	近隣の訪問看護ステーションと契約をしており定期的な訪問をしていただいております、またその訪問の結果を当該利用者のかかりつけ医へ情報伝達いただいている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅲ	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
		48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関とは定期的に事業書間でのミーティングなどを実施しており、入退院並びに外来受診等も円滑に行えるよう連携を図っている。	0	
		49 外部評価22	○重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族に対しては、看取りの指針を作成し、これを基に、入居時、入退院時など含め説明させていただいている。また医療機関の医療従事者を含め連携を図っている。	0	
		50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	協力医療機関からは毎週往診を頂きながら、事業所との信頼関係を築いている。またその背景の中から、ホームとして出来ること及び出来ないことの意味決定を継続的に行っている。	0	
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	早い段階からご家族との連携を密にし、ご家族を含めた関係者間の話し合いの時間などを出来る限り持つようにしている。	0			
Ⅳ	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己№52～89・外部№23～33)			自己評価38項目・外部評価11項目	2	
Ⅳ	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己№52～81・外部№23～30)	自己評価30項目・外部評価9項目	1	
		1	(1) 一人ひとり尊重(自己№52～54・外部№23～24)	自己評価3項目・外部評価2項目	0	
		52 外部評価23	○プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マニュアルの作成をしながら確認しており、またお互いが言葉遣いなどに注意を払うよう心がけて頂いている。	0	
		53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の様々な場面において、意思決定等を汲み出せる様な配慮に心がけている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
IV	1	54 外部 評価 24	○日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の実践をカンファレンスなどの場面において振り返りを行うことにより、本人主体の生活が出来ているかどうかの検討を行っている。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己№55～60・外部№25～26)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1度、来設する移動美容室サービスをはじめ、その他地域の美容室等において希望に沿った支援を心がけている。	0	
		56 外部 評価 25	○食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りにおいては、現在は中断しているが、ホーム内における食事、外食等も活用しながら、「食」を楽しんでいただけるよう心がけている。また食事作りは行っていないが、簡単なおやつ作りなど共に行ったりしている。	0	
		57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康上の問題もあるが、出来る限り一人ひとりの嗜好にあったものの提供に努め、個別に対応している。	0	
		58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンに沿ってトイレ誘導を行うなどして、安易にオムツへの依存は避けている。また排泄要因等を把握し、食事の提供、下着の選別などの情報提供及び支援をしている。	0	
		59 外部 評価 26	○入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日出来るよう体制をとっており、また個々の状態に合わせて入浴支援を行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の状態等に留意しながら支援を行っている。また安眠も活動との関係性から外せることは出来ない為、トータルアセスメントの中から関るよう心がけている。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己№61～66・外部№27～28)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		61 外部評価27	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味、嗜好を通して楽しみごとの提供やストレスの解消に、ホーム内外の社会資源を活用している。また気分転換と家族交流等を目的に温泉宿泊旅行なども1回／年、また屋外行事なども1回／月には取り入れることにより楽しみの幅を広げるよう心がけている。	0	
		62	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、ご家族の方と確認をさせていただき、自己管理の方もおられ、一律な制限は行っていない。金銭支払い手続きもご本人にあわせ自ら支払いを行ってもらうなど配慮を行っている。	0	
		63 外部評価28	○ 日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の希望に応じ、戸外への外出や散歩など気軽に来れるよう対応に心がけており、定期的に外出等の機会を設け対応している。	0	
		64	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季に合わせた行事計画を作成し対応している。その中にはご家族への参加呼びかけも行っており、機会を楽しめるよう配慮している。また年に5年前より温泉への一泊旅行を実施しており、ご本人もご家族も普段では味わえない機会を設け心がけている。	0	
		65	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室内には電話回線が敷かれており、個別に電話の設置が出来る設備があり、特段の制限はしていない。また場合によっては、スタッフの支援を要し、はがきなど出すこともある。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	ホームへ気軽に来ていただけるように面会等の時間も制限せず、来訪者にまた来ていただけるよう心がけ対応している。また入居当初はしばらく、事業所側よりご家族等へのヒアリングを行い、家族等の気持ちを汲み取るよう働き掛けを行っている。	0	
		(4)	安心と安全を支える支援(自己№67～74・外部№29～30)	自己評価8項目・外部評価2項目	1	
		67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的、精神的、物理的拘束などについては周知を図ると共に、常日頃のケアを皆で振り返ることが出来るようカンファレンス等の場で確認を行っている。	0	
		68 外部評価29	○鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることへの弊害については十分理解しているつもりであるが、ホームのシステム上施錠されている。ただ鍵がかかっても、出来る限り、外出等については制限しないよう心がけている。	0	
		69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	アセスメントの実施により、ご本人のライフサイクルの把握に努めるよう心がけており、スタッフ間での複合的な支援を心がけている。	0	
		70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々に合わせ使用し、保管等についてはマニュアルを作成し対応している。	0	
		71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の活動の中からひやり・はっと、インシデント、アクシデントレポート等を作成提出し、毎日の申し送り時に注意を払っている。また定期的に内部研修等を実施している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法等の対応については、外部、内部研修などを実施している。	0	
		73 外部評価 30	○災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、避難訓練等を実施しているが、日頃から地域の方を巻き込んだ実施までには至っていない。	0	
		74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	出来るだけそうあるよう心がけている。	1	入退院の際には健康状態、精神状態等の変化に伴い新たなリスクが懸念される際は、その都度家族へ説明を行い協力を仰ぐ場合もある。
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己№75～81・外部№31)	自己評価7項目・外部評価1項目	0	
		75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック等を行うと共に、必要であれば個別に1日のうちに何度か行いチェックシートを活用している。また訪問看護師、往診の医師等の連携を図り、早めに気が付きが図れるよう心がけている。	0	
		76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を個別にファイリングし、薬の管理と共に、常に確認をするよう心がけている。また、薬の副作用等についても、申し送りなどの場において周知するよう心がけている。	0	
		77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄リズムなどを把握し、栄養、水分、運動等の便秘要因の改善に留意している。出来るだけ薬剤による改善は避けるよう心がけ、ヨーグルト等、食の支援を行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
IV	その人らしい暮らしの支援	78	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアへの働きかけを行っている。	0	
		79	○ 栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要であれば個々にチェックリストを作成し対応している。また併設施設の管理栄養士等との協働の場において確認を行っている。	0	
		80	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成すると共に、内部研修、ミーティング、申し送り等で情報、対応策の共有に努めている。	0	
		81	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前後に食材、調理器具の消毒等を行っており、衛生管理についても管理栄養士を中心にマニュアルを作成している。	0	
	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)～(2) (自己№82～89・外部№32～33)			自己評価8項目・外部評価2項目	1	
	生活環境づくり	2	(1) 居心地のよい環境づくり(自己№82～86・外部№32～33)	自己評価5項目・外部評価2項目	1	
		82	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の入り口は、藤棚で季節によっては、近隣の方が訪れやすい雰囲気作りを行っているが、それ以外は十分な対応が出来ていない。	1	プランターに四季の花を植えるなど、誰もが親しみやすい環境づくりに努めたい。
		83	○ 居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部はカーテン等で採光の調節を行うと共に、季節に応じた飾り等配慮しており、利用者に季節を感じていただけるよう努めている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設設備的な問題で課題もあるが、利用者間等の関係等配慮しながら、お互いの関係が円滑に送る事が出来るよう心がけている。	0	
		85 外部評価33	○居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限はせず、入居に当たってはご家族に生活空間に対して十分な説明、協力を頂いている。	0	
		86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日頃より換気については十分気をつけており、空調については個別管理、集中管理においてコントロールを小まめにしている。	0	
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己№87～89)		自己評価3項目	0	
		87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はオールフラット構造で、リスクは少なく、また常にスタッフも入居者の居場所確認など小まめに気に掛けている。	0	
		88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	誤認等の対応については、申し送りなどその都度周知徹底を図り、統一した対応を心がけている。	0	
		89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの外観も緑が多く、居室から屋外へ自由に出来るよう特段の制限は行っていない。また、定期的な問題もあるが、小さな畑を庭に作っており、その中で家庭菜園も一緒に楽しむ機会を取り入れている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組 んでい きたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
V サービスの成果に関する項目				取 り 組 み の 成 果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	
V サービスの成果に関する項目	90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2／3くらいの ③利用者の1／3くらいの ④ほとんど掴んでいない	1		
	91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	1		
	92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない	2		
	93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない	1		
	94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない	2		
	95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない	2		
	96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない	1		
	97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2／3くらいと ③家族の1／3くらいと ④ほとんどできていない	1		
	98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	1		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
V	サービスの成果に関する項目	99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	1	
		100	○職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない	2	
		101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない	1	
		102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族と ②家族等の2／3くらいと ③家族等の1／3くらいと ④ほとんどできていない	1	
V サービスの成果に関する項目				取 り 組 み の 成 果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当 番号	

※ Vサービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

※ 番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

※ 項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。